【渡航例の紹介】

『受入先からの資金援助の状況』

1	往復航空運賃 1125.80 ポンド、滞在費 6517.51 ポンド、合計で 7643.31 ポンド（約 120 万円）の援助を受けた。受け入れ先からの銀行振込は迅速であった。	英国 117 日間
2	２週間分の宿泊費に関して補助（５２０ポンド）	英国 31 日間
3	ホテル代及び航空機代金を全額援助してもらった.	ベルギー 15 日間
4	現金での資金援助はなし。研究に必要な研究室や図書館へのアクセス等、大学における研究環境の整備の援助のみ。	英国 15 日間
5	無し	フランス 365 日間
6	生活費（食費、宿泊費）等に関してのある程度資金援助をいただくことができた。	フランス 61 日間

『渡航により得られたメリット』

- Due to this scheme in an ‘internationally’ lead team, I developed a deeper understanding of the importance of diversity. My new experience and contacts are sure to create new research ideas.
- 渡航前には予定していなかったヴァーチャルリアリティを用いての心理学実験を行うことができた。その結果、様々なプログラミングの手法を扱えるようになった。
- 自身が行っていた過去の研究を応用し受入研究者であるKoyama氏との共同研究をスタートさせた。また受入機関でのセミナー発表やポスドクとの議論を通じて研究課題に関して有意義な議論を行った。
- （1）世界で最先端の試みへの参加とそのチームメンバーとの議論、（3）日本では得ることのできない知識・経験・視野、出会うことができない人とのネットワークの構築、（4）今後 3 年間、共同研究の決定。
- シンプレクティック幾何学の最先端の問題に関する情報/知識などを得ることができた. また, 受入研究者をはじめとする海外研究者とのネットワーク形成にも大いに役立った.
- 渡航先研究機関の構内に設置されたLCP-FRAPを使用することで、標的タンパク質の膜内での流動性を計測し LCP 結晶を作製する上で重要な知見を得ることができた。